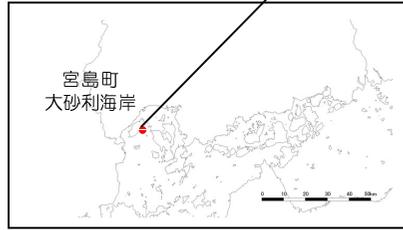


2.廿日市市宮島町大砂利海岸の調査速報（調査日：平成21年5月24日（日））

2.1 調査の概要

■ 調査の場所



■ 調査の時間

平成21年5月24日（大潮）の干潮時（13:30～16:30）に実施した。
当日の干潮は、潮位が9.1cm（15時27分）（潮汐表：厳島）。

■ 参加メンバー

宮島パークボランティアのみなさん（7名）
広島工業大学の学生（12名）
広島工業大学 環境学部 地域環境学科（1名）
広島県（3名）、調査委託会社・日本ミクニヤ株式会社（5名）

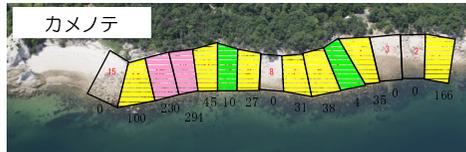
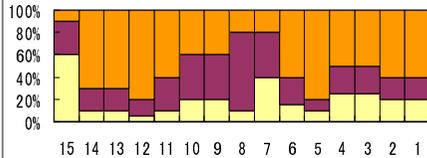


調査前のミーティング

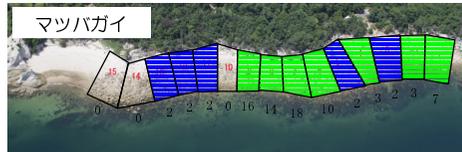
2.2 調査結果について

■ 沿岸域環境モニタリング方法

基質



・きれいな海域で見られるカメノテは少ない～多い、で確認された。



・きれいな海域で見られるマツバガイは非常に少ない～少ない、で確認された。

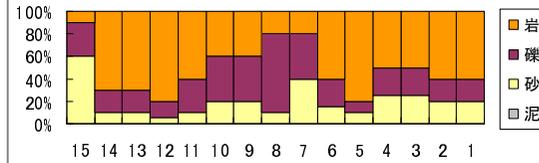


・比較的よごれた海域で見られるマガキは非常に少ない～多い、で確認された。

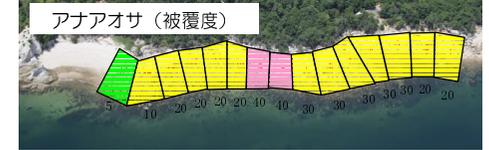


・きれいな海域で見られるケガキは、確認されなかった。

基質



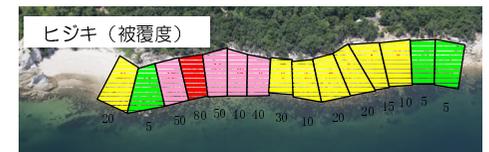
・ムラサキガイは、確認されなかった。



・比較的よごれた海域で見られるアナアオサは少ない～ふつう～多い、で確認された。



・比較的きれいな海域で見られるオオヒビガイは多い～非常に多い、で確認された。



・比較的きれいな海域で見られるヒジキは生育帯に付着基質が少なかった区域で少なかったが、付着基質がある区域では非常に多いで確認された。

- きれいな海域で見られるオオヒビガイが優占していた。よりきれいな海域で見られるカメノテ、マツバガイが見られたが、さらにきれいな海域で見られるケガキはまだ確認されなかった。
- 比較的汚れた海域で見られるムラサキガイは確認されなかった。

■ コドラート定点調査



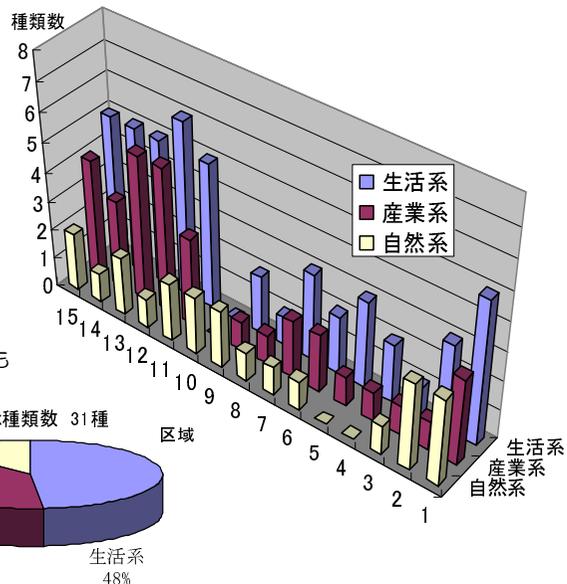
左写真
定点潮間帯中間部
方形枠（50×50cm）



- ・上部よりマガキ帯、カンザシゴカイ帯、ヒジキ帯に分かれる。
- ・マガキ帯はカキ類が皆無で、フクロフノリ帯の下限に位置する。
- ・カンザシゴカイ帯は、清浄な海域で見られるヤッコカンザシが一部混在している。
- ・さらにカンザシゴカイ帯下にオオヒビガイが混在している。

■ゴミ・漂着物

- 生活系では陸起源のガラス片、陶磁器、空き缶、ペットボトルが多かった。
- 産業系ではカキ筏に使われるスパーサーなど地域の産業を反映した特徴的なゴミが多かった。
- 自然系ではカキ殻などの海起源の貝殻や陸起源の流木が多く見られた。
- 種数の構成比は陸起源である生活系が半数を占め、次いで地域に特徴的なゴミが多い産業系、自然系が見られた。
- 区域10をのぞいていずれの区域においても生活系のゴミが最も多かった。



■景観・植生

- 景観・植生では、昨年度実施された3地点の定点撮影を行った。景観・植生ともに、昨年度との地形変化は見られない。
- 漂着物では、昨年度区域6で見られた竹が今回見られない。また、区域15では昨年度の方が若干流れ、藻の漂着が多く見られる。

H20.6.22

H21.5.24

区域6付近
南東方向



区域11付近
南方向海側



区域15付近
北方向陸側



■海岸・干潟生物調査マニュアルに基づく水質判定

指標生物名	得点	大砂利
ケカキ	20	×
アオガイ	19	×
ムラサキインコガイ	18	○
イロロ	17	○
イワヒゲ	16	○
クロフジツボ	15	○
カメノテ	14	○
イシゲ	13	○
マツバガイ	12	○
ウミトラノオ	11	○
ヒジキ	10	○
オオヘビガイ	9	○
イボニシ	8	○
ヒザラガイ	7	○
アナアオサ	6	○
マガキ	5	○
ムラサキイガイ	4	×
シロスジフジツボ	3	○
ツノマタ(褐色)	2	×
タテジマフジツボ	1	×
○の数		15
点数の合計		164
平均点		10.9
評価点(平均点×8)		87

引用：「広島県海岸・干潟生物調査マニュアル〔改訂版〕」、平成18年3月、広島県



■アンケート

- 個体数が多く数えるのが大変でした。でも実際に触れることで勉強になった。(男性)
- 垂直ラインの分担がはっきりしているとよかった。調査前の生物の説明は(調査結果から見えてくるなど)大切だと思った。(女性)
- 良いことだからマスコミを使ってもう少し人数を増やして下さい。(男性)
- とても面白かった。自分で触れながら体験的に調査できたので、とても印象深かった。ごみをもっと拾って帰ったら良かった。次の調査に活かしたい。(男性)

まとめ

- きれいな海域で見られるオオヘビガイが優占し、カメノテ、マツバガイがほぼ全域に確認された。
- 元宇品では多く見られた比較的よごれた海域で見られるムラサキイガイが確認されなかった。
- ゴミ・漂着物では、生活系の割合が多く、次いで産業系の割合が多い。海岸における人の活動が活発であることによると思われる。
- 水質判定では、評価点87点であり、評価Ⅰ(きれいな海)であった。
- アンケート結果では、元宇品同様に個体数が多い種の調査方法の工夫が必要との意見があったので、個体数が多い種は被度で確認する方法に班長が判断して変更とする。